

池淵遺跡 発掘調査現場説明会

平成 22 年 3 月 6 日（土） 13：30～

福岡県教育委員会では、国道 385 号道路改良工事に先立ち、埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査を実施しています。

発掘調査では弥生時代後期（約 1800 年前）・古墳時代初頭～前期（約 1700 年前）・古代（約 1200 年前）・12～13 世紀（約 800～900 年前）の井戸や建物の跡、溝などを発見しました。また井戸や溝の中からは様々な時代の土器や陶磁器などが多数見つかりました。

今回の説明会では、発見された遺跡の概要と出土した土器などを実際に見ていただきながらご紹介します。

池淵遺跡の発掘調査について

今回の発掘調査は、国道 385 号の建設に伴って、建設予定地の地下に埋まっている埋蔵文化財を調査し、記録という形で保存することを目的に実施しています。この記録は地域の歴史を語る貴重な資料として今後大切に保管し、またみなさんに公開・活用していきます。

遺跡の位置

今回の発掘調査は柳川市西蒲池池淵にある、「池淵遺跡」の調査です。この地域は筑後屈指の名族とされる「蒲池氏」の本拠地であり、「蒲池城」が築かれたことで有名です。蒲池城そのものは、蒲池のどの場所にあったのかははっきりとはわかりませんが、蒲池氏の氏神である「三島神社」や菩提寺である「宗久寺」などの存在などから、この周辺にあると考えられています。調査区はその蒲池城に縁の深い地域の約 1200m²の土地にあたります。

遺跡の内容

調査の結果、南側約 2/3 の範囲で多くの昔の痕跡（遺構）や出土品（土器など）を発見しました。遺跡の時代としては弥生時代後期、古墳時代前期、奈良時代、鎌倉時代の大きくは 4 つの時代に分かれます。複数の時代の遺構が重なり合っていて、古い時代に使われて埋まった遺構の上から、新しい時代にまた穴を掘っているため、古い時代の遺構は壊されています。

見つかった主な遺構は、当時の人々が使っていた井戸や土地を区画するような直線的な溝、倉庫らしき建物跡、柱のあと、大小の穴（土坑・ピット）などです。特に数多く見つかったのは「井戸」と考えられる深い穴で、弥生時代～鎌倉時代まで各時代に井戸が掘られていたようです。

建物跡は 2 棟見つっていますが、重いものを収納できるような構造であることから、倉庫だと考えられます。その他に居住施設のようなものは現在のところ見つかりませんでした。ただし、弥生時代の居住施設と考えられる建物が更に下に埋まっていることはわかっています。古墳時代～鎌倉時代の居住空間は別にあったと考えられます。

また特徴的なこととしては、鎌倉時代の土坑や井戸を埋めた土に、炭や灰、また焼けた土がたくさん入っていたことです。はっきりとしたことはわかりませんが、何かを焼いた後に残った灰や焼け土を捨てたと考えられます。何かの工房があったのかもかもしれません。

井戸	建物跡（掘立柱建物）	溝	その他
中世 13基	中世 不明	近世？ 2条	弥生時代～中世
古墳時代 3基	古墳時代 2棟	中世 2条	土坑・ピット・柱
弥生時代 9基	弥生時代 未定	弥生時代 1条	穴・杭など

✚ 出土したもの

今回の発掘調査では、実に多くの土器や陶磁器などが出土しています。これらの内半分程度は、中世に造成された土の中から見つかっているため、周辺の遺跡を壊して持ってきたものだと考えられます。残り半分は、昔の人がこの場で使用したものが捨てられたり埋められたりして残っていました。出土品は

弥生時代：土器、石庖丁、鍬の作りかけと考えられる木製品、柱の下に敷いた板など

古墳時代：土師器・須恵器

鎌倉時代：土師器・瓦器・輸入陶磁器・石鍋など

で、当時の人々が使用した日常食器はもちろん、お祭りに使用した特別な土器や、さらには動物の骨もたくさん出土しています。中国から輸入された「青磁」などの陶磁器は、当時は高価で貴重なものであったと考えられます。蒲池庄などとの関係が考えられるかもしれません。

また弥生時代の井戸の底からは、完全な形のままの土器が発見されました。通常見つかる破片や割れている土器は捨てられたものと考えられますが、これらの完全な土器は、井戸を埋める際の祭祀のために埋められたとも考えられます。昔も今も、井戸を大切にすることは変わらず、埋めるときにはきちんとお祭りしたのでしょう。

✚ 発掘調査からわかったこと

今回の調査では、今から約 1700 年前の弥生時代後期には、この地に生活する人々がいたこと、その後鎌倉時代まで、継続的に営みがあったことがわかりました。今回の調査面積の調査で、これだけ数多くの優良な土器が出土することは珍しく、大変貴重な発見です。また、今回の調査では残念ながら「蒲池城」と考えられる遺構は見つかりませんでした。その前の時代にあった「三瀨郡蒲池庄」の人々の生活痕跡と思われる遺構が見つかりました。また土地を区画するような溝があることから、何かの施設を取り囲むような役割があったのかもしれませんが。これまでの調査から考えると、調査区の西南が最も標高が高かったことがわかりました。当時の集落の中心はそちらにあったことが考えられます。

これらはすべて地域にとって貴重な発見であり、大切な財産です。

✚ 今後の発掘調査について

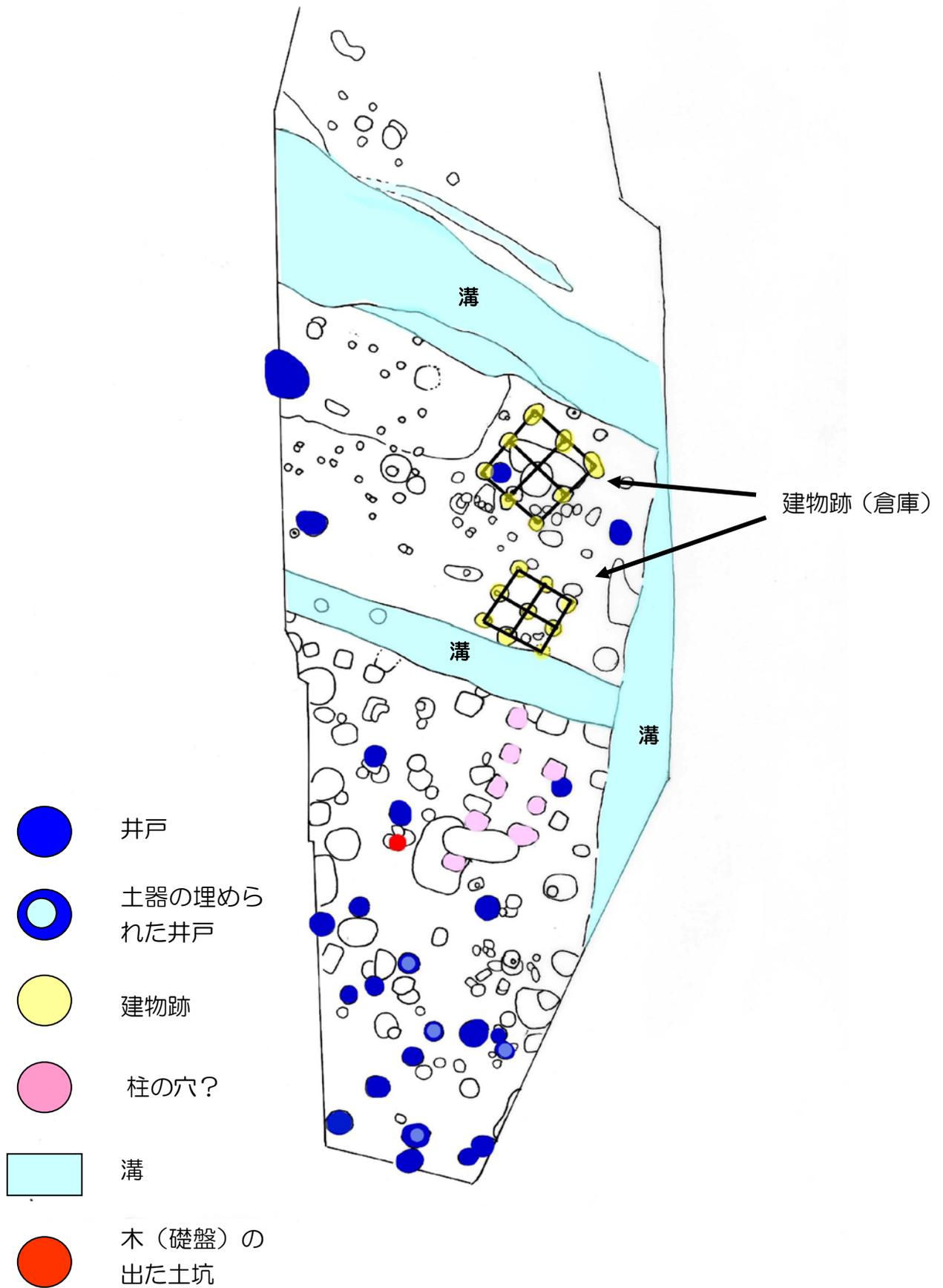
今回の調査地は、本日ご覧頂いている地面の更に下にも、まだ弥生時代の建物跡がたくさん埋まっています。このため今後も継続して発掘調査を進める予定です。

今後とも発掘調査や文化財の保護について、何卒ご協力、ご理解下さるようお願いするとともに、地元の大切な歴史や文化財に興味をお持ちいただければ幸いです。

本日は現場説明会に御参加いただき、誠にありがとうございました。

（福岡県教育庁総務部文化財保護課 齋部麻矢）

池淵遺跡の発掘調査遺構配置図





井戸に埋められた土器

いくつかの井戸の中には、底の方にたくさんの土器が埋まっていました。

写真のように完全な形で埋まっている場合は、井戸を廃棄する際に祭祀（お祭り）をしていたことが考えられます。

他にも土器の破片や木くずなどが入っているものもありましたが、これらは不要物として捨てられたと考えられます。



溝から出たたくさんの土器や陶磁器

調査区中央部を東西に横切る溝からは、陶磁器や土師器、瓦器椀がたくさん出土しました。多くは壊れたために捨てられたのであろうが、完全な形のものもあり、これらは使い捨てられたものと考えられます。中には高価な中国輸入陶磁器も含まれていました。



動物の骨

今回の調査では、動物の骨もたくさん出ています。左の写真は「あご」の部分が出た状況です。土器や石器と一緒に捨てられていたようです。何の動物の骨かはまだわかりませんが、調査終了後に専門機関に鑑定をお願いする予定です。当時の人は何を食べていたのでしょうか？



柱の痕跡と柱の下に据えられた土器

遺跡内には建物の柱の穴が幾つか見つっています。それらには柱が立っていた様子が確認できますが、その一つには柱の下に割れた土器が据えられていました。柔らかい粘土質の地盤に、柱が沈まないように硬い土器を据えていたのだと思われます。